

事業の実績	大江校区・八代地域等における多文化共生地域づくりに関する調査研究と活動
	<p>1. 大江校区における多文化共生地域まちづくりに関する調査研究と活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/11（日）：大江校区の社会福祉協議会への訪問、事前調査 ・ 11/22（金）：大江公民館2階にて、多文化共生地域づくりの一環としての、「作って食べて繋がる東アジア」イベントと映画上映 <p>2. 八代・葦北地域における多文化共生地域づくりに関する調査研究と活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7/14（日）：ベトナム人技能実習生と共に農園を営む葦北地域の有機農園での事前調査 ・ 11/17（日）～11/23（土）：東アジア市民共生映画祭での「多文化共生・共創ローカル・フェアトレード」開催 ・ 12/21（土）：八代の日本語教室および葦北の有機農園への訪問：ベトナム人技能実習生との懇談会 <p>3. 韓国の大田大学の学生との共同調査研究と活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12/26（木）～12/28（土）：韓国大田・洪城で地域マルシェ活動・調査研究・シンポジウムなど
具体的な成果	多文化共生地域づくりへの貢献・人材育成
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2019年7月～8月にかけて、熊本地域における多文化共生の地域づくりの可能性を探るため熊本市大江校区と熊本県八代・葦北地域にて事前調査を行った。大江校区の社会福祉協議会を訪問、また有機蜜柑などを栽培している葦北のみかん農園（ベトナム人技能実習生協働）を訪問調査した。 ・ 2019年11月17日～11月23日に開かれた東アジア市民共生映画祭期間中、東アジア学科の学生を中心に多文化共生地域づくり活動を行った。その一つは、葦北地域の有機農園（ベトナム人技能実習生協働）のレモンや蜜柑を中心とするローカル・フェアトレード活動を映画祭期間中に行ったこと。もう一つは、11月22日に熊本市大江公民館2階で「作って食べてつながる東アジア」というイベントを大江地域住民と共に行った後、大江公民館ホールで多文化共生映画「アンニョン・ミス」の上映会を行ったことである。大学の近隣地域である大江校区と連携し、多文化共生地域づくり活動を行ったのである。 ・ 2019年12月21日、東アジア学科の学生8名（3年生6名・2年生2名）とベトナム人留学生1名が八代市教育会館を訪問し、八代で外国人を対象に日本語教室を行っている教室運営スタッフより運営方法などを聴くなど意見交換会を行った。外国人農業技能実習生が県内で最も多い八代地域での多文化共生地域づくりの方法を探ることができた。その後、葦北の有機農園を訪ね、ミカンの収穫や包装作業などを手伝い、ベトナム人留学生の通訳を介してベトナム人技能実習生との懇談会を行った。 ・ 2019年12月26日～28日、東アジア学科9名（3年生6名・2年生3名）が、大田大学の学生と共に韓国の大田と忠清南道洪城にて東アジア青年マルシェと地域共同体東アジアシンポジウムを開催した。1日目：大田大学の近隣の伝統市場で大田大学の学生と共に多文化移住女性が製作したハンドメイド小物のフリーマーケットなど、2日目：韓国で活発に動いているコモンズが最も多い農村地域である韓国の忠清南道洪城地域を見学した後、オヌイコミュニティーセンターで韓国・中国・日本のまちづくりに関するシンポジウムを行った。東アジア学科3年生と教員の発表もあった。3日目は、韓国で公正旅行（フェア・トラベル）会社としてよく知られている「共感万歳」を訪ね、公正旅行による大田の原都心地域づくりに関する話を聴取した。 ・ 今回の活動を通じて、学生たちは地域における多文化共生が具体的にどう実現できるかを学び、韓国との比較調査研究もできた。今回の経験を生かして、今後の多文化共生地域づくりに寄与することとともに人材の育成にもつながるプロジェクトであった。